

外務省

Ministry of Foreign Affairs of Japan

本文へ | English | リンクページ | よくある質問集 | サイトマップ

文字サイズを変更 [あ](#) [中](#) [小](#)

検索

国際外交 | 海外対応

外務省案内 | 渡航関連情報 | 各国・地域情勢 | 外交政策 | ODA | 会議・訪問 | 報道・広報 | キッズ外務省 | 史料・公開情報 | 各種手続き・ご意見

[トップページ](#) > [外交政策](#) > グローカル外交ネットオールジャパンでの外交力強化を目指して
グローバル外交ネット

地方は重要な外交プレーヤー。3つの柱で地方との連携を図ります。

- 地方の魅力を世界に発信する場を提供します。
 - 地方の国際的取組を支援します。
 - 地方の国際交流に関する情報交換の場を提供します。
- ～地方連携推進室～

地方連携情報

外務省は、地方と世界を結ぶために、海外と日本で様々な連携事業を行っています。

詳しくはこちら➡

大使館などの活用例は
こちら

➡ GO

地域の魅力発信
セミナーはこちら

➡ GO

グローバル通信最新号➡

バックナンバーはこちら

2010年5月25日

NEW!!

外務省の地方連携

姉妹都市交流プラクティス等意見交換会(在シアトル総領事館)(PDF)

ジャカルタ日本祭りに参加しませんか?(在インドネシア大使館)(PDF)

地域の国際交流

友好都市イブスウィッチ市の150周年祭に参加(群馬県)(PDF)

若い「料理人」の交流(愛媛県)(PDF)

世界初! 複数の島が舞台の芸術祭(瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局)(PDF)

秋田で各国駐日大使の連続講演会(国際教養大学)(PDF)

国際儀礼の基本講座

座席割りやスピーチ順などの順番を決める際、序列の根拠となる基準はあるのでしょうか?(PDF)

メニュー一覧

➡ 地域の国際的取組

他の自治体はどうしているのだろうか? 何かいいアイデアはないかな?
そういう時はこちらへどうぞ。

➡ 国際交流データベース

支援プログラムはないかな? プロトコールについて知りたいんだけど...
そんな国際交流に役立つ知恵袋です。

➡ 外交プレーヤーリスト

官庁、法人、公館、国際機関など、国際活動を行っている外交プレーヤーの情報です。

➡ 国内視察スポット

海外からのお客様の視察候補地などを目的別に紹介します。

▶ サイトマップ

「私たちの取組み」



▶ 地方連携推進室長

外務省が紹介!
地域の施策

- ▶ 北海道・東北地方
- ▶ 関東・甲信越地方
- ▶ 東海・北陸地方
- ▶ 近畿地方
- ▶ 中国・四国地方
- ▶ 九州地方

最新情報掲示板

NEW!! 6月3日更新

開催地未定の国際会議
(PDF)

外国要人の地方訪問(PDF)

外務省地方連携推進室

～日本各地で国際的活動を行う皆様を支援するメールマガジン～

グローバル通信 5月号



外務省地方連携推進室
運営ホームページはこちら

グローバル外交ネット

第17号

平成22年 5月26日

～ 若い「料理人」の交流 ～

(愛媛県)

愛媛調理製菓専門学校生とオーストラリア
ア国クイーンズランド州TAFE料理学校生の
日本料理を通じた交流。 [詳細](#)



～ ジャカルタ日本祭りに参加しませんか？ ～

(在インドネシア大使館)



9月25日～10月
3日、第2回ジャカル
タ日本祭りがジャカル
タにて開催されます。
この祭りに参加を希望
する自治体を募集しま
す。 [詳細](#)

～ 編集後記 ～

暑さ寒さが極端な春でした。みなさま、体調を崩しませんように。(M)

先日、露地物のパジルを頂きました。太陽の光を沢山浴び、たくましく育ったパ
ジルは、見た目の強さとは対照的に、茎まで柔らかく甘くて驚きでした。(K)

グローバル通信の配信希望の方は、[ここ](#)をクリックしてください。みなさまからの寄
稿も大歓迎です。

※次回配信は、6月30日の予定です。

ご意見やご質問は、gaimu-renkei@mofa.go.jpまでお願いいたします。

この号の内容

1. 外務省と地方自治体等の連携

- [姉妹都市交流](#)
[プラクティス交換会](#)
(在シアトル総領事館)
- [ジャカルタ日本祭りに](#)
[参加しませんか？](#)
(在インドネシア大使館)

2. 地域の国際交流

- [友好都市イブスウィッチ市の](#)
[150周年記念祭に参加](#)
(練馬区)

- [若い「料理人」の交流](#)
(愛媛県)

- [世界初！](#)
[複数の島が舞台の芸術祭](#)
(瀬戸内国際芸術祭
実行委員会事務局)

- [秋田で駐日大使の連続講演会](#)
(国際教養大学)

3. 地方連携推進室より

- [国際儀礼の基本講座](#)
(外務省地方連携推進室
杉田首席事務官)

※ それぞれグローバル外交ネット上
のPDFファイルにリンクしています。

えひめグローバルネットワークとモザンビーク モザンビークと愛媛のつながり

NPO 法人えひめグローバルネットワーク代表

竹内 よし子

えひめグローバルネットワークは、1998年4月に「国際協力勉強会」として発足し、2005年10月6日、「国際協力の日」にNPO法人化した市民活動団体です。国内外を問わず、地球規模の視点で捉えながら、グローバルに国際、平和、環境、人権、福祉など、社会全般に関する様々な問題の解決・改善を図るため、複数分野を横断して地域密着型・市民参加型で（1）国際協力活動の推進、（2）地球市民教育の普及、（3）セクターを越えたパートナーシップとネットワークづくり、および（4）持続可能な市民社会の構築に寄与することを目的としています。



モザンビークとの出会いは、勉強会で取上げた「銃を鋏へ」と呼ばれる平和支援プロジェクトとの出会いがきっかけとなりました。同国は1975年にポルトガルから独立を果たしますが、その後も、冷戦構造下における代理戦争とも呼ばれる内戦で1992年に終戦を迎えるまで戦争状態が続きました。1995年から始まったこの「銃を鋏へ」プロジェクトは、モザンビークキリスト教評議会（CCM=Christian Council of Mozambique）が中心となって政府や警察、軍隊とともに進められています。聖書イザヤ書からの引用で名付けられており、剣を鋏や鋏に換え「戦いを学ばない」という言葉に続きます。



平和教育と共に村から村へ・・・と活動を広げ、国中に残された武器を集めようとする市民の主体的な活動に感銘し、その交換物資に使われる放置自転車やミシンを日本から送る活動に目が留まりました。「松山からも応援しよう」ということで行動を起こしたのが、当団体のモザンビーク支援・国際協力活動の具体的な一歩で、同時に愛媛県松山市が条例で定めた放置自転車の「市民団体への無償譲渡」の始まりとなりました。

市民が参加する平和構築プロジェクトは世界的にも稀有です。モザンビークで集められた武器の大半は爆破処理されますが、一部は切断され、アーティストの手によって平和を訴えるアートへと生まれ変わります。世界の平和は、心で願うばかりでは訪れませんが、市民による平和活動の「実践」が伴うなら実現に向かう力があるのではないかと勇気付けられます。そして、松山から送る自転車についても、市民参加型、地域密着型で工夫しながら市民の手で贈っています。

日本では、アフリカを知る機会、出会う機会、学ぶ機会が限られているため、アフリカに対する理解はなかなか広がっていませんが、2005年から始まった「持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）」の一事例として、当団体が支援する「銃を鋏へ」が取上げられたことがき

っかけとなり、モザンビークという国の名前は、一般市民にも知られるようになりました。愛媛では、松山市「平和の語り部」講師派遣事業や（財）自治体国際化協会のアドバイザー派遣、外務省 NGO 相談員などの講師として各種学校や大学、自治体職員の勉強会などを通じて事例紹介されることが多く、愛媛新聞やNHKなどのコミュニティメディアも積極的に取上げてくれるため、アフリカで知っている国は？と聞くと「モザンビーク」と応える市民が増えています。現在も、松山市とともに自治体国際化協会のモデル事業が進んでおり、松山市内にある新玉小学校では年間を通じた国際理解・平和学習の3回目を迎えています。小・中学校、高校、大学と連携していくためのさまざまな勉強会も開催しており、モザンビークのルリオ大学と連携している愛媛大学の今後の展開も注目を集めているところです。

ところで、ダニエル・アントニオ駐日モザンビーク共和国大使館特命全権大使は、2005年10月以来、2009年7月までに8回愛媛を訪問されています。そして、他にもモザンビークからの要人がたくさん愛媛を訪れています。通常なら、日本を紹介するコースとして「東京・京都・広島」が定番でしょうが、広島から愛媛・松山は水中翼船で1時間ほどなので、足を伸ばして立ち寄ることが難しいのです。モザンビークを支援するNGOのところへモザンビークから要人が訪ねてくる・・・当団体は、こうした機会を大いに活用して、その都度、学校訪問や交流会などモザンビークを知る機会を市民へ拓いていきました。市民は、こうした本物との交流を通じて、モザンビークを身近に感じ、理解を深めていくことができます。外務省の出張所は地方にありませんが、こうした国内の官民連携や市民交流を通じてオールジャパンの国際協力の一歩がスタートしている、と言っても過言ではないでしょう。



こうしたモザンビークとの交流が進み、ゲブザ大統領をはじめ閣僚を含む33名の代表団が2008年5月31日に愛媛を訪問されました。横浜で行われた「第4回アフリカ開発会議」終了後に愛媛を訪問することが決まったのはその3週間前だったため、受入れは大変でしたが、愛媛を訪問された初めての国家元首となり、愛媛の歴史を刻むこととなりました。当団体の活動はまだまだ小規模ですが、たとえ、小さな支援で

あっても、基本的な「知ることの大切さ」「知ろうとする大切さ」を忘れず、市民目線の国際交流や国際協力活動を継続することで、日本人のアフリカ理解の裾野を広げていけたらと願っています。ゲブザ大統領の訪問は、愛媛の市民とともにこうした友好関係を築くことの大切さ確認する好機となりました。

そして、もう一方で、その市民目線の大切さを教えてくれたのは、モザンビークからの研修生でした。当団体が招いた研修生は、小学校卒で中学校には行けない環境にあった低学歴の女性や、十分なコミュニケーション能力や働く意欲があるのに有給の仕事を得るチャンスめぐり合えなかった高校卒業の青年です。言葉や文化や習慣の壁を乗り越えながら、愛媛にたくさんの友人をつくり、日本とモザンビークを行き来するであろう人的交流を深めることができました。しかし、まだまだお互いに学びあうことが山のようにあります。そして、解決・改善すべき課題を共に担っており、協力し合える方法をもっともっと考えていかなくてはならないと思っています。愛媛とモザンビークの関係に興味を持った方、ぜひ、松山に足を運んで下さい！



「丹波の森とウィーンの森の出会いと交流」

平成21年11月

(財)兵庫丹波の森協会 常務理事 大対信文

1. 兵庫丹波地域の紹介

兵庫の丹波地域は県の中東部にあり、総面積870平方kmの75%を山林が占める緑豊かな『森の国』、そして清らかな水に恵まれた『農の国（丹波黒大豆・丹波栗・丹波大納言小豆等は全国ブランド）』です。

また、山間地でありながら京阪神や日本海、瀬戸内海から約60～70kmという地の利に恵まれ、古代より文化の十字路（奈良、出雲、京都、大阪、大陸など）として栄え、その多様な文化を柔軟に吸収しつつ独自の文化を育んできた『文化と歴史の国』でもあります。

2. 丹波の森とウィーンの森との出会いと交流

しかし、1980年代中頃に入ると、この丹波地域にもバブル景気の波が押し寄せ、乱開発による自然環境や景観の破壊が危惧されるようになりました。

そんな中、1987年に当時の貝原兵庫県知事から「丹波は森の国、この豊かな森を活かして都市との交流を深め、阪神地域（都市部）と丹波地域がウィーンの森のように一体的な生活圏を形成しよう。」との提言がありました。

この提言を受けた当時の丹波10町（現在は合併により篠山市と丹波市の2市になっている。）では、翌88年に住民総意による『丹波の森宣言』と『ウィーンの森との姉妹提携の提案』が採択されました。そして、その翌年には、丹波の地域づくりの指針として『丹波の森構想～人と自然と文化の調和した地域づくり～』を策定するとともに、ウィーンの森づくりを現地に学ぶため、第1回のウィーンの森親善訪問団を派遣いたしました。その4年後の93年11月3日、丹波地域とウィーン市13区・ヒーツィングとの間で友好親善提携の調印が実現し、本格的に相互の交流が開始されました。

3. 18回目のウィーンの森親善訪問

18回目の今年（10月13日～15日）は、折しも日本とオーストリアの間で修好通商航海条約が締結されて140周年の節目の年に当たっていたことから、幸運にも大変印象に残る有意義な親善訪問となりました。

と申しますのも、市民レベルの国際交流に力を注いでおられる駐オーストリア田中映男大使のご配意で、大使公邸にヒーツィング区の皆さんと私ども19名の訪問団をお招きいただき、レセプションを開催していただいたことです。

レセプションは田中大使自らの司会進行で進められ、歓迎や答礼の挨拶の後、訪問団は日本の童謡を、ヒーティングの女声合唱団はオーストリアの歌曲を、それぞれ披露しましたが、さすがに音楽の都のコーラス、レベルの違いは歴然でした。大使に「訪問団を先に歌わせただいて助かりました。」と言いますと、「一生懸命が人の心を打つのです。」との大使の絶妙な即答に爆笑する一コマもありました。

レセプションは、会食、プレゼント交換、身振り手振りの歓談など、和気あいあいの内に進行し、一層の友好を深めることができました。訪問団の皆さんからは「大使公邸でのレセプションに参加できたことは、一生の思い出になりました。」「何か大きな国際舞台に立ったかのような誇らしい気分になりました。」等々の喜びの声が寄せられました。

この貴重な友好交流の場を提供下さいました田中大使はじめ、大使館職員の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

『丹波の森』と『ウィーンの森』とは出会うことは出来ませんが、そこに住む人々は交流することが出来ます。今、丹波では、この人と人の交流を大切に、互いの文化を学び触発しあいながら、森文化の復興・創生に取り組んでいます。

ウィーン市ヒーティング区表敬訪問



ナポレオンの森での記念撮影



大使公邸でのレセプション



ヒーティング女声合唱団の
美しい歌声で歓迎を受ける



大使公邸での記念撮影



問い合わせ先 (財) 兵庫丹波の森協会
〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原5600
Tel 0795-73-0933